



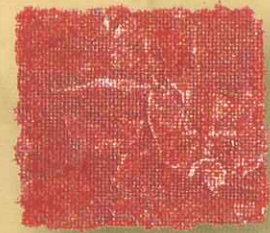
道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.11 秋号



巻頭随想

万芸から生まれた、私の道
神田 紅

特集 道の日&道路ふれあい月間

九州の道守が活躍！
道を舞台に今年も多彩に活動

道守の輪

地域の連携と論議 深まる

「できる人が、できることから」「じっくり時間をかけて」

街道を行く

“シュガーロード”多彩な菓子文化を今に

巻頭
随想

神田紅

(講師)



万芸から
生まれた、
私の道。

小学校5年まで、箱崎の坂本町（福岡市東区）に住んでいた。学校が終わっても教室に隠れて遊ぶタイプだったから、帰りは真つ暗で友達と別れると最後はひとり。木材工場や醤油工場の側を通り、寂しい松林の脇道はすごく怖かった。歌いながら、スキップしながら、飽きたらいろんな物語を想像した。でも怖い話を考えてもつと怖くなった。

宮崎宮参道の「放生会」の見せ物小屋や幽霊屋敷が大好きで、怪談話を友達

古代から、人々は共有の財産として、力を合わせて普請し道を守ってきた。道は暮らしを支え、産業を起こし、文化を運び、人々を結びつけた。

なのに、道はいま、人々から、地域から遠い存在—子供たちが道路でキャッチボールや縄跳びをし、老人たちが縁台で将棋を指した風景はどこへいったのだろう。便利だが危険、車優先、大気汚染や騒音：心地よい広場の役目や「公共」を失ってしまったのだろうか。

私たちにも忘れ物がある。「道は行政の責任」と自宅前のごみや雑草、汚れなどにさえ知らん顔。空き缶どころか家庭ごみまでポイ捨て。「道普請」の心は一体どこへ。

心を痛め、道の美化や植樹・植栽などに取り組みむ人々が増えている。実践者を中心に「道を考えよう」という機運が高まりだした。道路行政も転換期、量から質へ、車優先の見直し、さらに住民と行政の「協働」という新しい潮流が芽生え始めた。新しい機運と潮流をまとめ大きな流れに—。それが「道守九州会議」設立の呼びかけとなった。

道守。その由来は万葉の昔にさかのぼる。道を守り旅人の飢えと渴きを潤す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は、住民と行政とが協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、一歩踏み出そう。



CONTENTS

- 01 巻頭随想
「万芸から生まれた、私の道」
神田 紅
 - 02 特集 道の日&道路ふれあい月間
九州の道守が活躍！
道を舞台に今年も多彩に活動
 - 03 道守九州会議交流会 2006
「みちづくし in 長崎」開催
 - 04 道守の輪
道守九州会議設立3年目
地域の連携と論議 深まる
「できる人が、できることから」「じっくり時間をかけて」
 - 05 わたしの好きな道
幼少の思い出に重なる、ダイナミックな道
木ノ下 結理
 - 06 私たちの道守活動
 - 07 土木遺産 西海橋と新西海橋 (長崎県佐世保市—西海市)
 - 08 街道を行く
“シュガーロード” 多彩な菓子文化を今に
 - 09 海外道事情【デンマーク王国】
道路から魅せるデンマークの美しい国土
デンマーク版シーニックバイウェイ
 - 10 ご存知ですか？
九州の5年で見える道づくり
「ちやく²プロジェクト 2006」進行中
 - 11 トピックス/人物伝
 - 12 道守九州会議会員募集中/お知らせ
- 表紙画：久富 正美
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

に聞かせるのも得意だった。ついたあだ名は「幽霊少女」。江戸川乱歩を愛読し自作の「ピアノ殺人事件」「赤いちり紙、白いちり紙」が持ちネタだった。このあたりが私の講師としての原点だろう。それにしても大変な道を選んだものだ。シユバイツァーにაცოგაれ医者を目指。その前は科学者や宇宙に憧れた。小さいときの願いは続ければ叶うもので、今は講師の傍ら、(財)日本宇宙フォーラムの理事でもある。

三輪明宏さんの「何倍もの人生を生きていきたいから、私は役者」という言葉に感銘を受け、東京で演劇をしようと早稲田大へ、文学座へ。でも残れなくて挫折。捨てる神あれば拾う神ありで、一流プロダクションから女優デビュー。市原悦子さんの付き人になったが、やっぱり自分の道を探さなきゃと、神田山陽師匠に弟子入りし講談の道へ。昭和54年に寄席デビュー。最初はロックバンドを連れてきたり、歌ったり踊ったり。あんなものは講談ではないとさんざん叩かれた。でも師匠は「万芸一芸を生ず、を实践してくれる弟子が紅だ」と。

柳原白蓮、貞奴、松井須磨子、杉村春子、ターキー一代、マリリン・モンロー、ヘップバーン…。これまで100人以上を語ったことになるが、こだわりが強く、その人に共感できないとやりたくない。

九州の道守の話聞き、ある講談を

思い出した。神田の炭屋に奉公する塩原太助が、湯島の道が雨でぬかるんで難儀していると、稼いだ金十両を道普請に充てる。それを知った主人は「神田の人間が、何で湯島の道のために…」と怒るが、「神田の者が湯島の道を通ることもあるし、湯島の者が神田の道を通ることもある。湯島の道をきれいにすることは神田の道をきれいにすることと同じだ」という太助に、ほとほと感心する。

世のため人のため、ひいては社会のため、日本のため、世界のため、地球のため、宇宙のため。理想を持って生きると、今ある自分もつと活かされる気がする。男でも女でもない本物の人間を求める時代になったが、もともと女性初、女だてらに…という言葉に生き甲斐を感じるような性格。これからも伝統芸を通じて、自分のやりたいことを精一杯やろうと思っている。

プロフィール
福岡県生まれ。修猷館高校卒業、早稲田大学中退。文学座研究生を経て女優の道へ。1979年故二代目神田山陽師匠入門。89年真打に昇進。90年落語芸術協会会員となる。明るく、楽しく、解りやすい芸風で、テレビ、ラジオ、映画、エッセイと幅広く活躍。今年6月、国際ソロプチミスト福岡「女性栄誉賞」受賞。



九州の道守が活躍！ 道を舞台に今年も多彩に活動

- 各地で一斉清掃 ●座談会 ●シンポジウム ●フェア ●パネル展 ●チラシ配り ●道の日カレー
- ポスター&俳句・短歌 ●紙芝居 ●テレビ・ラジオPR ●子ども道守隊 ●道の調査&現場体験

8月は道路ふれあい月間、8月10日は道の日です。道守九州会議では、今年もより多くの方に道路の大切さや道路愛護の関心を高めてもらおうと、各地域の行政と連携し、九州各県の道を舞台にさまざまな活動に汗を流しました。各県の道守会議の取り組みの数々を紹介します。

◆道守ふくおか会議

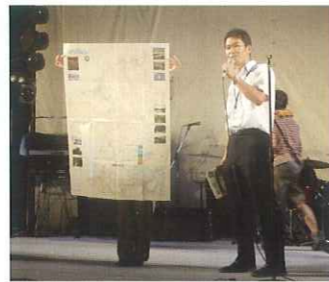
名島橋、北九州で橋&道フェスタ 柳川市で1200人人道清掃

「橋の日」の8月4日、地域の道路清掃や花壇作りを行う道守会員が参加する恒例の「名島橋サンスフェア2006」が福岡市で開催され、約300人が訪れました。地元中学校バンド、福岡国道事務所職員バンド、福岡



松崎中学校のバンド演奏

バンド、地元ジャズバンドらがステージ演奏。会場の一画では、道守活動や道路の走りやすさマップをPRするパネル



走りやすさマップのPR

展が行われました。柳川市では道守柳川ネットワークが8月1日、



柳川の一斉清掃

柳川の観光週間（8月1日～7日）に合わせて観光施設や川下りコース周辺の清掃活動を実施。早朝から48団体・約1200人が汗を流しました。

北九州では8月5日に「道の日フェスタ2006」を開催。道をテーマにした紙芝居「北九州道物語」などが来場者の関心を集めました。



「道の日フェスタ」の紙芝居

◆道守大分会議

「道の日」大分、日田で一斉清掃 道守パネル展が県内を巡回

8月10日の「道の日」、道守大分会議では大分市顕徳町の老人会デウスクラブと国土交通省大分維持出張所の合同メンバー30人が、国道10号線沿



清掃活動を行うデウスクラブ

いを清掃しました。日田市では同日、県日田土木事務所の呼びかけで、参加者約110人が国道沿

い約10kmを1時間かけて清掃。空き缶など3トトラック1台分のごみを拾いました。9月9日には別大マイツリー会員ら約70人が別



日田の国道一斉清掃

大分道一斉清掃を実施。田ノ浦海岸から水族館「うみたまご」までの約1.5kmを清掃しました。2年前に植えたマイツリーの前では記念撮影や手入れを行い、活動の継続を誓い合いました。

県内8カ所の道の駅では、道守パネル展が巡回。「知人がゴミ拾いをしていて感心した」「とるばるの写真が素敵。行ってみたい」などの感想が寄せられました。



県内各地を巡回した道守パネル展

マイツリーの成長を見ながら清掃

◆道守佐賀会議

「栄の国まつり」で道路フェア 歩行者天国で道守活動を紹介

道守佐賀会議では8月5日に佐賀市唐人町通りを歩行者天国にして開催された「栄の国まつり」と連携。「2006佐賀道路フェアin栄の国まつり」と銘打ち、道守会員や行政関係者約70人が、



会場に設置された道守パネル

道路愛護を呼びかけるフェアを行いました。会場ではパネル展示や道路クイズ、パンフレット配布



浴衣姿で道守活動を紹介

などを行い、訪れた地元住民に道路について認識を深めてもらいました。来場者アンケートの結果ではフェアの認知度が昨年より大きくなっていることが分かり、地域に根ざしたイベントになりつつあると実感しています。

◆道守長崎会議

まち歩きで道守広報、空き缶清掃 ラジオ、テレビでもPR

「長崎さるく博'06」が開催される中、道守長崎会議では8月10日、長崎市の繁華街・浜の町アーケードで、会員や

活水女子大生ら約30人が道守活動を「まち歩き」広報。また同日、道守会員のロードスターズら約30人で、市内の空き缶拾いと徒歩巡回を行いました。その他にも活水女子大学生らがラジオの生放送で道守活動をPR。若い人が道を語る様子が好評を得たようです。また県庁では、道守会員の2団体（日本ボーイスカウト長崎県連盟東彼杵第2団、環境美



テレビ取材も入った表彰式

化を考える会）に国土交通大臣表彰、3団体（竹友会、ロードスターズ、佐世保市ふれあい協会）に国土交通省長崎河川国道事務所長表彰が授与されました。

◆道守くまもと会議

県下一斉清掃に早朝から2340人 「道の日カレー」「子ども道守隊」も

道守くまもと会議が昨年企画した「道の日カレー」が大好評だったため、今年も27種類のユニークなご当地カレーを県内の



道の日カレーは今年も大好評！
（道の駅宇土マリーナ）

道の駅、高速道路休憩所などで8月中販売しました。ミニクイズやスタンプラリーなどのおまけ付きで、道への関心も高まったようです。

8月10日は早朝7時から「熊本県下一斉清掃」を実施。県内126ヶ所で111団体、総数2340人が参加しました。メイン会場の白川公園では、NPO、企業など約30団体200人が



早朝7時からの「熊本県下一斉清掃」

集合。市内各地で清掃に取り組み人々の姿が見られました。また「道の日熊本フェア」を熊本市内で開催し、道に関する絵や俳句、川柳の表彰式、道守パネル展、子ども道守隊の新メンバー約40人と道守犬（ジェニファ）の加入式、交流イベントなどが盛大に行われました。



たくさんの子供たちが参加した「道の日熊本フェア」

風情ある知恵、涼を呼ぶ

「打ち水」九州各地に広がる

打ち水で涼を呼び、環境問題を考えようと、全国の市民団体などが一斉に展開する「打ち水大作戦」。福岡、北九州、大牟田、佐賀、日田、長崎、鹿児島などでも、道守活動に関わる地域のNPOや市民団体、大学生らが企画する打ち水イベントが行われた。各地の参加者からは「初めての体験だった」「涼しさが体感できた」「仲間と楽しめてよかった」「庭でやってみたい」「ベランダでも水をまきたい」などの声があがった。



子どもたちが打ち水をデザイン（8/7・福岡市）

市役所前で打ち水をする佐大生ら（8/23・佐賀市）



道に関わる人たちが集い、語り、歩き、考える

道守九州会議交流会 2006 「みちづくし in 長崎」開催

10月27日、28日の2日間、長崎市の長崎ブリックホールなどを会場に、道守九州会議交流会 2006「みちづくし in 長崎」を開催します。道守九州会議交流会は、一昨年の熊本市、昨年の別府市に続き3回目。九州各地域で道に関わる活動を展開しているボランティア団体、NPO(非営利組織)、市民団体、企業及び行政関係者などが長崎市に集います。27日は、活動を進めていく上での課題や、行政との協働による「みちづくり」の方向などについて、各県の道守や子どもたちが語り合い、考えます。28日は長崎の「まち歩き」。長崎さるく博のコースを実際に歩きながら、道の持つ新しい可能性を探ります。お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

10月27日(金) 受付 12:30 ~ 13:00		10月28日(土) 出発 9:00 ~ 10:00 解散 12:00	
13:00	全体会議 (会場:長崎ブリックホール) 特別講演 講師:茶谷幸治氏(長崎さるく博'06コーディネーター) 「都市めぐりとシーニックバイウェイ」 ～「長崎さるく博」の可能性を広げて～	13:35	現地体験学習 (会場:長崎市内各所) 長崎さるく博'06ガイド付きまち歩き 「長崎通さるく」7コースから選択
14:30	報告会 1部:各県の子どもからの報告・討議 2部:各県の道守からの報告・討議	14:00	①長崎は今日も異国だった～南山手洋館、港がみえる坂～
17:20	道守九州会議総会	14:30	②媽祖様と唐りゃんせ～中国版出島・唐人屋敷の歴史～
18:30	交流集会 (会場:グラバー園) 暮れゆく長崎港を見下ろす洋館で、 素敵なガーデンパーティー	15:00	③文人墨客も思案した?～花街の栄華をたどる丸山界隈～
		15:30	④長崎港水辺散策～ベイエリア今むかし～
		16:00	⑤長崎はローマだった～いくつもの宗教が交差する西坂～
		16:30	⑥懐かしの街並み～地元商店街と町家めぐり～
		17:00	⑦重文縁起よか界限～寺町のお寺とお宝拝見～

主催:道守九州会議、道守長崎会議、国土交通省九州地方整備局、九州幹線道路協議会 共催:長崎さるく博'06推進委員会



お問い合わせ

道守九州会議事務局 (社)九州地方計画協会内
TEL 092-473-1057 FAX 092-434-4389

さあ、みちづくし! 第2回実行委員会開催

「みちづくし in 長崎」の第2回実行委員会が8月29日、長崎市内で行われました。道守長崎会議を中心とする実行委員会のメンバーをはじめ、今年長崎で行われている「長崎さるく博」事務局、県や市などの行政関係者ら22人が出席。開催準備の状況報告や確認、第2回「みちづくし in 長崎」実行委員会の様子などを中心に、話し合いが行われました。また、告知ポスターやチラシの完成品が紹介され、参加者全員が「みちづくし in 長崎」に向けた決意を新たにしました。



第2回「みちづくし in 長崎」実行委員会の様子

道守みやざき会議 道守シンポジウムで「道守の日」宣言 300人が一斉活動誓う

道守みやざき会議は8月10日、「道守シンポジウム」を宮崎市内で開催しました。道守に関心を寄せる市民、行政関係者、道守会員ら約300人が集合。市立大淀小学校吹奏楽部「ビッグスペースバンド」の演奏で幕を開けました。



会場に訴えられた。パネル討論では「道(未知)との遭遇」をテーマに活発な意見交換。また10月22日を「道守の日 in みやざき'06」とし、県内で一斉に道守活動を実施することを誓い合いました。子どもから大人まで、道をテーマに世代をつなぐシンポジウムとなりました。

潮小学校の児童による道守体験発表。守九州会議代表世話人の基調講演の後、日南市立潮小学校の児童3人による道守体験発表。「ウミガメの研究中に、ゴミが生態系にまで悪影響を与えていることが分かった」と、ゴミ放置の深刻さを訴えた。



パネル討論「道(未知)との遭遇」

道守かごしま会議 初の座談会に300人 探検、調査:子どもたちも道体験



初めての道守座談会

道守かごしま会議では道守への理解を深めようと、初の座談会を8月23日に鹿児島市内で開催。約300人が集まりました。「道から始まる新しいふるさとの魅力」をテーマに、パネリスト5人が意見交換。鹿屋市で28年続く繁華街の清掃活動、小学生との天文館周辺の史跡巡り、マップ作りなどが報告されました。



「土の舗装体感プロジェクト」で道路の傾きを測定

子どもたちを対象にしたイベント。おすみ分科会のメンバーは、道路清掃を行いました。また道守かごしま会議おすみ分科会では、8月3日の会議後にドライバーへの呼びかけや道路清掃活動を行いました。

九州視察はじまる!

日本風景街道

戦略会議が4ルート視察

日本風景街道戦略会議の委員が1ルート視察に訪れ、福岡・佐賀・長崎(玄界灘風景街道、ながさきサンセット・オーシャンロード)9月8(12日)、宮崎・鹿児島(日南海岸きらめきライン、錦江湾あつたまる)と同日21(23日)で、現地視察や市民団体との意見交換などを行った。道守九州会議では各地の道守会員らと連携し、ルート応募の後押しをしてきた。同戦略会議ワーキンググループの大石久和委員(国土技術研究センター理事長)は「地域づくりに努力する皆さんに『風景街道』を通じて応えたい」と話した。



虹の松原(唐津市)、ハウステンボス(佐世保市)を見学する視察団



道守の輪

道守九州会議設立3年目

地域の連携と論議 深まる

「できる人が、できることから」「じっくり時間をかけて」

道守柳川ネットワーク（福岡）

3年目、今年も元気に道守活動！ 第1回会議を開催 特別講演も

道守柳川ネットワークが平成18年度第1回会議を7月6日、柳川市役所で開催。今年も「できる人が、できることから」を合い言葉に、柳川

の道守活動の輪を広げ、続けていくことを誓った。



日米の道を語るジェイミーさん

会議には住民代表、教育機関、商工会、観光協会、行政機関など27団体から29人が参加。3年目の最初の活動として、8月1日早朝に市内の川下りコース、水辺の散歩道、西鉄柳川駅周辺を中心に清掃活動すること

を決定し、人員配置などについて

道守長崎会議

道をテーマに ミニ座談会 車から人へ、 大きな心で道守活動

道守長崎会議の「ミニ座談会」が7月15日、諫早市の諫早市社会福祉会館で行われた。道守長崎会議

諫早チームが企画したもので約20人が参加。道をテーマにワイワイガヤガヤと自由に意見を出し合った。「車から人へ、道を見つめなおす時期だ」「歩道の段差は歩きづらい」「歴史の街道を十分に活用しよう」「植えた花を持ち帰る人がいて残念だ」



ミニ座談会の様子

かけて大きな心で活動することを確認した。

道守佐賀会議

佐賀をより良く！ 意見交換会を開催

道守佐賀会議の意見交換会が7月19日、佐賀市の佐賀国道事務所会議室で行われ、県内で道守活動を行うNPOやボランティア団体、企業、個人、行政関係者など32人が参加した。会では、今年度の活動計画や各団体からの活動状況を報告。「活動を継続するために、どのような工夫があるか」「活動時の事故が心配」「花植活動に企業などの協力を得たいが



道守佐賀会議意見交換会の参加者

良い方法はないか」などの質問が出され、活発な意見交換がなされた。

道守かごしま会議おすすめ分科会

3団体が新加入 2団体が表彰

8月3日に道守かごしま会議おすすめ分科会が開かれ、新たに加入した（株）鹿児島航測、鹿屋たばこ販売協同組合、鹿屋未来研究会の3団体が紹介された。また、7月19日の平成18年度九州地方整備局国土交通行政功労表彰式で、地域内の2団体（垂水市協和地区公民館、札元商工親睦会）が道路環境の保全美化功労団体



表彰を受けたことが報告された。会議では、おすすめ分科会の新会長に吉野千代子・鹿児島熱闘会議議長を選出した。

道守活動で車いす10台寄贈 立花町の田中さん 福祉団体から表彰



表彰状を手にする田中さん

道守通信2号「道守人物伝」で紹介した田中稔さん（福岡県八女郡立花町・日本ウォーキング協会）に、福祉団体から感謝の表彰状が贈られた。左足の障害を克服しようと始めたウォーキング歴は34年。10年前から道端のゴミを拾い集め、アルミ缶を選び分けて換金し、福祉団体に車いすを寄贈する活動を続けてきた。田中さんの活動から贈られた車いすは、このほど通算10台目となった。今では足の障害を克服。「元気でいる限り、活動を続けたい」と意気込む。



おすすめ分科会の様子

国道220号の道守に 国土交通行政功労表彰



国道220号の清掃活動（札元商工親睦会）

「協和地区公民館」はかつての海湯温泉の活気を取り戻そうと、垂水市海湯地区の歩道清掃、春・秋の植栽帯の花植えに取り組み。周辺地域でもボランティア活動が始まるきっかけとなった。「札元商工親睦会」は地域住民総勢314人で歩道の植栽帯に鹿屋市のシンボルである「バラ」を植え、地域のイメージアップと道路美化に取り組む。肥田眞八郎・札元商工親睦会会長は「小さな活動が自然と広がり、町内で協力できた。うれしいことに、子どもたちも親と一緒に参加し、ガソリンスタンドなども店舗前を清掃するようになった」とコメントを寄せた。

わたしの好きな道

幼少の思い出に重なる、ダイナミックな坂道 — 柞原八幡宮への道 —



別府湾に向かって右手には、大分市内が一望できる。

小学校に上がる頃、補助輪を外したピンクのジュニア用自転車に乗っていた。よく読んでいた絵本からとったのだろう。その自転車に「ピノキオ」と名付けていたことを覚えている。

実家のある大分県中津市は、今は住宅街だが、当時は家の周りには田んぼが多く、子どもの目線だと視界はどこまでも広がる平野だった。近くに唯一ゆるやかな坂道があって、そこで「ピノキオ」に乗るのが楽しかった。近所の同級生4、5人といっしょに、何をするかと言えば、両足をあげてスピードに乗り、気持ちよく坂道を滑走する「自転車暴走族」遊び。夢中になって先頭を走った。

現在の私のお気に入りの道は、大分市西部の上八幡地区にある柞原八幡宮のそばにある。10年来の友人宅へと続く通い慣れた坂道で、愛車「ピノキオ」の思い出とよく重なる。このあたりの森は、人類が栄える前の自然の姿をとどめており、野生動物も生息する学術的にも貴重な森だそう。

高台からカーブを下って行くと、緑の木々の間から別府湾が見え、森を抜けるとそこには青い空と青い海が一気に広がる。晴れた日には近くの大大分市内だけでなく、遠く国東半島や四国まで見渡すことができる。途中には豪快なワインディング道。そこからの風景は、鳥になったように心地よく、自由で身軽な感じがする。実は高所恐怖症なのだが、地に足がついている道だからか、安心感や優越感にひたることができる。

九州には、私の好きな道がたくさんある。きれいになった別大国道、路面電車と車が一緒に走る長崎の道、新北九州空港の連絡橋、熊本阿蘇大観峰、鹿児島霧島温泉へ向かう道。どれもダイナミックな道ではあるけれど、心の底から印象に残る道は、やはり幼少時代の原風景に重なる柞原八幡宮の坂道だ。いつかこの坂道を自転車で滑走してやろうと、秘かに思っている。



プロフィール 木ノ下結理

大分県大分市在住。カラーズクリエイティブ代表 (www.colozcreate.jp)。平成18年度道守大分会議事務局長に就任。



かなりの急勾配。眼下に別府湾が壮大に見える。



私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルもアイデアもさまざま。活動を紹介します。

宮崎編 道守みやざき会議

日南海岸 モデルルートから 多彩な情報発信

清掃、植栽、シーニックバイウェイ10月22日を宮崎「道守の日」に
道守みやざき会議(日高晃代表)は、2004年6月に21団体で設立。今年度で3年目を迎え、現在は47団体にまで拡大。会員同士が互いに連携・協力し合う組織に成長してきました。これからもいっそう活動の輪を広げていきます。

てきました。この春、日本風景街道(シーニック・バイウェイ・ジャパン)のモデルルートに「日南海岸きらめきライン」

道守みやざき会議はこれまで、宮崎のメインストリート・橋通りを色とりどりの花で彩る植栽活動や、最盛期の日南海岸を目指したコパノセンナの苗の植栽活動などを、道守体験事業と組み合わせて進め



コパノセンナが彩る日南海岸

を国や県、宮崎市や日南市などの市町村、道守団体と連携し、応募。早くからのシーニックバイウェイの勉強が実を結び、支援を受けることになりました。今後は日南海岸のブランド化を目標に、プロジェクトやイベントなどの情報発信を行っていきます。

意見交換会に60人 シンポジウム、 一斉清掃を決定!

6月27日、道守みやざき会議の意見交換会を宮崎河川国道事務所で行いました。道守活動に取り組むボランティア組織や企業20団体と行政関係から約60人が参加し、昨年度の活動報告、今年度の活動方針について議論。「鵜戸山をかつしや



平成18年度道守みやざき会議意見交換会

る協議会」(長友治会長)のツマベニチョウの里づくりの事例などの発表が行われ、活発な意見交換会となりました。今年度の方針として、8月10日の「道の日」シンポジウム開催、10月22日を「道守の日」として県内で道守一斉活動を実施する、などが決議されました。

宮崎 川南町平田長寿会

清掃、花植えて地域に奉仕 「笑顔の道」できた!



の奉仕活動に取り組んでいます。

子ども会と協働し、道路や公共施設、公園などの美化清掃、花壇づくりや花の植え替えを行っています。年中きれいな花を咲かせて、道行く人たちに大変喜ばれています。平田神社参道からその周辺一帯には、コスモスの種をまいて、花をいっぱい咲かせます。お花見などの親睦会には、たくさんの方が集い、明るい「笑顔の道」ができて交流の場になっています。また、親子会とともに道の草刈り、空き缶やチリ拾いを行い、住みよい安全な地域づくりに努めています。

(日高利文)



福岡 直方バイパス頓野やまももの会

住民の手で道路を美しく
若者の参加求む!



「地域の道路は自分たちできれいにしよう」。このような思いから、2002年11月に直方市頓野地区の住民39人で発足しました。地区内を通る国道200号バイパスと県道直方・

行橋線沿いの清掃活動を続けています。定期活動は、4月または5月、6月、8月、10月の年4回。約2時間、歩道や植樹帯、花壇の草むしりやごみ拾いをし、会報も発行しています。地道な活動が評価され、2004年7月には国土交通省北九州国道事務所長から道路の「保全美化功労者表彰」を受けました。

清掃活動は住民交流の場でもあり、若者も巻き込んだ活発な活動を目指しています。現在は会員のほとんどが40歳以上であるのが悩み。活動を継続させるためにも、参加すると特典を得られるポイント制の導入が不可欠と考え、行政と連携しながら検討しています。
(阿部公男)



佐賀 平野建設産業株式会社

歴史ある道、大切に
ごみ減少の確かな手ごたえ

私たちが清掃ボランティアを開始して今年で10年目になります。活動範囲は唐津城外堀周辺。現在、堀は一部を残してほとんどが埋め立てられ、道路になっています。
正保年間(1644年~1647年)に作成された「肥前唐津城廻絵図」を見ると、当時と位置があまり変わっていない道も多く残っていることが分かります。400年近い間、先人たちがさまざまな思いを胸に往き来したと考えれば、この道を大切にしなければならぬという使命を感じます。このような思いがきっかけとなって始めた清掃活動ですが、ごみの回収量は年々減少しています。当初2トンプイっばいだったごみも、今年は可燃ごみ7袋、不燃ごみ4袋になりました。活動も10年を経過し、確かな手ごたえを感じています。歴史あるこの地この道を、後世に残すべく、微力ながら活動を続けていきたいと考えています。
(川添信雄)



大分 「中九州横断道路」の早期完成を願う女性の会

念願の道路着工
道づくりは「ひと・まち」づくり!



「竹田市の過疎化を止めるには中九州横断道路の早期完成が不可欠」と、5年間にわたって国交省や国会への要望提出、学習会を続けています。そんな中、「お願いするだけではないけない。道づくりは行政と手を取り合ってまちづくり、ひとづくりをしていくこと」と気付きました。そして、道守大分会議や日本風景街道モデルルート「阿蘇くじゅう・やまなみハイウェイ」魅惑のバイウェイ竹田」プロジェクトへの参加で、道を守ることの大切さを学び、エンジンがかりました。
6月には県境を越えて、阿蘇市の女性の会を誘い「シーニックバイウェイ」の学習会を開催。10月は観光のメインとなる岡城の歩道に彼岸花を植え、11月には立教大学観光科の菅原由美子先生を講師に迎え、まちづくりの学習会を予定しています。10月22日には待望の「中九州横断道路・大野・竹田」の着手式。子どもや孫が安心して過ごせる「ふるさと竹田」を目指し、活動を続けていきます。
(堀幸子)



長崎 小浜温泉 57

美しい心
もてなしの心を育てよう

国道57号をはじめ、温泉街を美しくしてお客様を快く迎えようと今年1月に発足。会員は旅館の女将や商店街の店主などで、会員数は57号にちなんで57人です。国道、市道、街の休憩施設の清掃や花壇づくりのほか、「5+7」の毎月12日は環境美化談義を行います。毎月の定例清掃をはじめ、精霊流し、湯祭りなどのイベント後にも清掃をします。
小浜温泉は、地下100mから100℃の源泉が噴き出す、湯量豊富なかけ流しの温泉。歌人斎藤茂吉が「ここに来て落日を見るを常とせり 海の落日も 忘れざるべし」と詠んだことから、橘湾の落日の素晴らしさがうかがえます。



早朝、国道の花壇で草取りに汗を流す女将たち。美しくなった花壇を見つめ、「さわやかな気持ち、これこそお客様をもてなし心」と、心を一つにしました。活動を通して「美しい心、もてなしの心」が育つことを願います。
(竹馬朋宏)

熊本 Thousand Spring Green

国道で「道守花壇」づくり
可憐な花々で心和む道に!



私たちは、道のイベントの企画や清掃活動など、以前からさまざまな道守活動を行ってきました。

そして、今年から新たに道守花壇への取り組みを開始。道守花壇とは、国のボランティア・サポート・プログラムの支援を受けて、熊本の国道沿いを花でいっぱいにしてほしいというもので、今年3月に県内14カ所でスタート。私たちは熊本市湖東の国道57号線と県道28号線の交差点沿いで花壇をつくっています。四季折々の花々が風にそよぎ、懐かしさや優しさを感じるようなイングリッシュガーデンを目指し日々の手入れにいそんでいます。土いじりは楽しく、道行く方が声をかけてくれることも励みになります。これからも歩行者やドライバーの方々の心和む道づくりのために、愛情を込めて花を育てていきたいと思っています。
(小川みどり)



鹿児島 鹿屋たばこ販売協同組合

「吸殻の投げ捨てやめて」
清掃、灰皿配布で呼びかける



私たちは、昭和54年、たばこ産業KKの指導のもと、喫煙者と非喫煙者が共存できる社会を目指して清掃活動を開始。2月、6月、10月の年3回を活動時期に定め、28年間にわたって活動の輪をはぐくんできました。活動内容は、鹿屋市内のメインストリートの清掃、ポケット灰皿の配布。おそろいのグリーンのエプロン姿で、ヒバサミ、ビニール袋を手に作業をしていると、「いつも大変ですね」「ご苦労さま」とねぎらいの言葉をかけられ、すがすがしい気持ちになります。発足当時は参加者も少なかったものの、理解も深まり現在は会員数205人。心を一つに「美しい日本の道」を目指して、地区の皆さまとのコミュニケーションをはかり、楽しく取り組んでいます。



たばこの吸殻などの投げ捨ては、各人の道徳規範に委ねるところではありませんが、「ごみを捨てない」という気持ちがあるすべての人に定着するまで、努力していきたいと思っています。
(遠藤止子)

うず潮をまたぐ、新旧の橋

長崎県佐世保市と西海市(旧・西彼町)の間は、急流が渦巻く伊ノ浦瀬戸。毎年3月から4月は最大級のうず潮が発生し、満開の桜とともに「観潮会」に多くの観光客が訪れる。「西海橋」はこの伊ノ浦瀬戸をまたぎ、佐世保市と西海市を結ぶ。今年3月5日には、並行する形で「新西海橋」が開通した。

日本初の「夢の架け橋」

西海橋の供用が始まるまで、西海市が位置する西彼半島は、伊ノ浦瀬戸のうず潮により「陸の孤島」と言われた。1936年、地域住民は伊ノ浦架橋を熱望し、当時大串村(西彼町)村長で県議でもあった大串盛多は、11月県会で架橋を迫った。1940年に建設予算が議決されるも、翌年の太平洋戦争で計画は中断。架橋は戦後になってから。



アーチ部分が下から支える西海橋

大串が架橋を迫って19年後の1955年12月1日、西海橋の架設にあたり、数々の新工法が開発された。橋の軽量化もそのひとつ。西海橋の骨組みには穴があけられている。橋の管理に携わる長崎県北振興局の高治正信課長は「強度の面からみて、風速50m以上でも十分耐えられます」と語る。その後、西海橋の技術は日本各地へと広がる。1962年の若戸大橋、1973年には関門大橋



並行する西海橋(手前)と新西海橋

浪漫を土木遺産訪ねて

西海橋の供用開始。橋の形式は、日本初の上路式プレストアーチ橋。鋼のアーチ部分が橋を下から支える。急な潮の流れによりアーチ形式が取られ、架設方法にまで影響。ケーブルクレーンを設置してアーチを築く、ケーブルエレクション斜め吊り工法が用いられた。アーチ支間216m。当時のアーチ橋としては東洋一、世界第3位。有料橋としても日本第1号(1970年無料化)。「夢の架け橋」と呼ばれた。

街道を行く

歴史を学び、道を守る

砂糖の道は 複々線化し多彩な菓子文化を今に

シュガーロード(砂糖の道)は10年前、佐賀で生まれた。新道ではない。江戸へ砂糖と東西の菓子を運んだ長崎街道の歴史と、今に伝わる多彩な菓子文化を検証するネーミング。佐賀の道守活動の柱の一つになっている。フェスタが開かれ、観光ガイド養成のシュガーロード検定には菓子作り試験まである。現地を訪ねた。

小城駅前羊羹通り、消費日本一を支える

JR長崎本線の小城駅前から北へ2kmに羊羹店が林立している。その数約20軒。小城市内の羊羹生産業者数はかなり減ったが、それでも23。佐賀県の羊羹消費日本一を支える。縫うように饅頭やおこしの店がある。終点の須賀神社

の麓辺りが老舗の村岡総本舗で、入母屋造りの本店隣は国の有形登録文化財の古い洋館。かつての倉庫で23年前から羊羹資料館。その隣も別の羊羹店。



村岡総本舗本店と羊羹資料館(右) 賀の菓子は文明の十字路の証」と全 国各地の講演や執筆に忙しい。資料館と裏手の工場で大塚隆久係長と永野光教工場長と話を聞いた。

長崎から羊羹機械と技術 地域産業に

江戸時代、1820年の「長崎出島の図」によると蔵十数棟のうち3つが砂糖蔵。砂糖は銀と等価だった。砂糖と一緒にヨーロッパや中国の菓子が入り、江戸へ運ばれた。カステラ、丸ボーロ、金平糖、一香口、饅頭、そして羊羹。それらが肥前・長崎と佐賀の名物・名産となって今に伝わる。数は減ったが結婚式などの祝い事の伝統菓子・寿賀台



漆塗りの木箱から出される羊羹

もその変形だ。中国発祥の羊羹は、江戸期の佐賀で家で作られた。明治32年、長崎から羊羹製造機と技術を譲り受けたのが村岡総本舗創業のきっかけ。

「小城羊羹」と名付けた。炭鉱や鉄道など近代産業の労働現場で甘みが好まれた。小城ブランドが地域産業に発展した。

判官。2位は？佐賀のあこがれの職業はかつて菓子店だった。「いずれも堅実」。戦前のキャラクター大メーカーの森永、グリコ、新高の各創業者は佐賀出身。永野さんと大塚さんは、さしずめ「砂糖の道」の語り部だ。資料館1階で来訪者に試食の羊羹や抹茶を振る舞いながら説明に熱がこもる。ここでは学校帰りの地元の子どもたちも試食OK。今も漆塗り木箱に流し込んで作る伝統菓子のおいしさを知ってほしいから。



大塚隆久係長 永野光教工場長

検定制度が登場、菓子作り実技試験も

実は、旧長崎街道は小城を通ってはいなかった。それでも源流は長崎街道。「道は、四方に延びる。福岡に続く唐津に松原おこしや松露饅頭、山越えの道。

が続々と完成。西海橋は長大橋建設のモデルであり、日本長大橋の元祖。長崎県民にとって戦後復興の象徴といえる。佐世保市の統計によると、橋を一目見ようと観光客が7%増加。その果たしてきた役割は大きい。



空の色と同じ「スカイミスト」で化粧されている

新西海橋は西海橋の北西250mに位置。長崎市と佐世保市を1時間で結ぶことを目的とした西彼杵道路の一部として整備された。形式は鋼中路ブレースドリブアーチ橋。アーチ部分が左右から橋を支え、真ん中を橋が通る。アーチ支間230m。新西海橋は、西海橋の進化形とも言え、安全や観光、歩行者への配慮などが随所に見られる。架設方法は西海橋と同じ。「新西海橋を造るときから方法は満場一致。昔から、すごい架設技術をもっていたという事です」と高治課長と同局の小泉修一技師。さらに、景観を損なわないように、橋の色は空の色と同じ「スカイミスト」を採用。クレーンで一度つり、色を確認した。景観保護はアーチ部分のボルト締めにも及ぶ。ボルト締めはアーチ管の内側から手作業で行われた。



高治正信課長(右)と小泉修一技師(左)

日本風景街道のビュースポット

長崎市から平戸市までの道は、日本風景街道のモデルルート「ながさきサンセット・オーシャンロード」として、夕日や教会、橋など多彩な海岸風景が楽しめる。豪快なうず潮を真上から見ることができ、新西海橋は、開通と同時に一躍、観光スポットとなった。交通と観光の面からも、新たな長大橋のモデルといえる。



橋の下に設けられた漆架歩道橋

川上峡に白玉饅頭など多彩な菓子が佐賀で生まれ育った」と語り部たち。シュガーロードは「文明の十字路」であり、長崎街道複線化の歴史と今を一言で現す。佐賀の道守たちの活動の柱の一つにもなっている。佐賀地域づくりのNPO法人「活気会」の代表で道守佐賀会議代表の三原ユキ江さんは「ドイツのロマンチック街道のようにしたい」と夢を語る。2年前から佐賀名物菓子を集めたフェスタを開き、昨年は「シュガーロード検定」制度を設けた。検定は初級から上級までの試験があり、初級と中級には「ね 路地調査の報告をするりきり」を作る実技もある。佐賀では「ブラックモンブラン」など新しいタイプの名物が今も生まれている。シュガーロードは長崎でも使われたし、佐賀との共同企画の試みもある。道は生きものだ。良い命名は、過去と未来、夢を秘めている。(滝平道郎)



活気会メンバー



九州の5年で見える道づくり 「ちやく²プロジェクト 2006」進行中！

「5年で見える道づくり」の考え方にに基づき、九州地方整備局が策定した「ちやく²プロジェクト」。実施4年目に入り、事業に対する効果が現れています。利用者に見える道づくりを目指したこの施策の概要をご紹介します。

●利用者に見える道路づくりを目指して

工事中の道路などを通行したときに「いつ終わるんだろう？」「いつ完成するのだろう？」と思ったことはありませんか？「開通予定時期の目標を立て、有言実行し、その目標に対する結果を公表する」。この見える道路づくりが「ちやくプロ」です。九州地方整備局のホームページは、「ちやくプロ」の内容とともに、各担当事務所へのリンクを通じて事業の進捗を掲載しています。「ちやく²プロジェクト」ホームページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/tyaku2/index.html>

●ちやくプロの効果

1 事業効果の早期発現

事業の選択と集中を実施した結果、「ちやくプロ」導入後の年間平均供用延長は約1.4倍に増加しています。供用年次が早まることにより、事業効果が早期に発現しています。

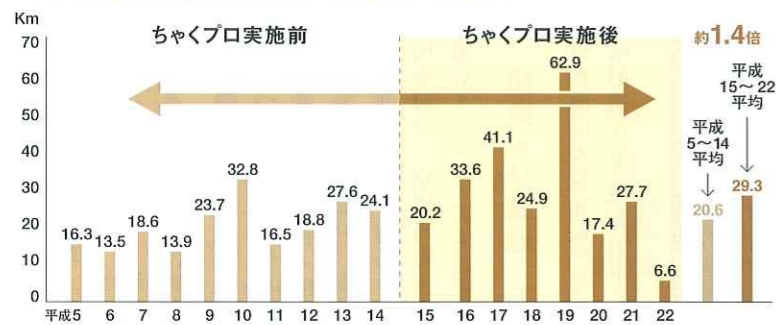
2 目標公表による地域の協力

「ちやくプロ」明確な目標が示されたことにより、地域の方々の協力も得られやすくなったという事例も見られました。

3 担当職員の意識向上

プロジェクトの目標と役割が明確であるため、地元関係者への説明も明快であり、担当職員もいっそう大きな達成感を持って取り組むことができています。

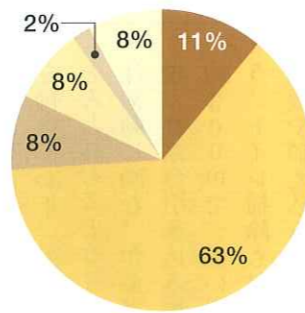
年度毎の供用(目標)延長(平成5～22年)



進捗目標の達成状況

「ちやく²プロジェクト 2005」では、全体の74%の区間・箇所が進捗目標を達成しました。

- 目標以上達成
- 目標達成
- 目標遅延達成
- 目標未達成(供用目標保持)
- 他事業関連で供用目標変更
- 目標未達成(供用目標変更)



●ちやくプロ2006の目標

「ちやく²プロジェクト 2006」では次のような供用目標を掲げ、改築予定では平成22年までに139.5km(51区間・箇所)の供用を目指しています。今後とも職員一丸となって道路利用者に見える道づくりを目指していきますので、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

「ちやく²プロジェクト 2006」供用目標(九州全体)

	平成18年度	平成18～22年度
改築事業(バイパス、拡幅事業、新直轄事業等)	24.9km(16区間・箇所)	139.5km(51区間・箇所)
自歩道設置・交差点改良等(交通安全事業)	58箇所(16.7km)	71箇所(20.0km)
「道の駅」設置箇所数(交通安全事業)	0箇所	2箇所
電線類地中化事業	共同溝	0箇所
	電線共同溝	14箇所(25.1km)
防災対策事業	防災対策	8箇所
	震災対策	112橋梁
		29箇所(47.4km)
		22箇所
		204箇所

●道路についてのご意見・ご相談を受け付けています

九州地方整備局「道の相談室」

☎0120-106-497 FAX 092-476-3514 [24時間 毎日受付]
E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp HP <http://www.qsr.mlit.go.jp>

海外道事情 デンマーク王国

道路から魅せるデンマークの美しい国土
デンマーク版シーニックバイウェイ



マーガレット・ルートの風景



マーガレット・ルートの案内標識



デンマーク郊外の全景(飛行機から)

デンマークをドライブしていると見慣れない道路標識に気づく。マーガレットの花の下に案内の矢印が示される標識である。これにしたがって車を進めると、美しい農村、広大な牧草地、よく保全された海岸や森林、さらには歴史的な教会や古城などの史跡に導かれる。どれも「これぞデンマーク」という美しい風景である。

このマーガレットが示す道は、女王の名前「マルグレーテ」に因み、マーガレット・ルートと呼ばれる。1991年に指定され、総延長約3700km。道自体は必ずしも広くなく、離合に気を遣う箇所も多い(そのおかげで、サイクリングルートとしても有名である)。それでも道路地図や観光マップには必ず記載され、道路標識もよく整備されているため、運転中に迷うことはない。

さて、このような美しい風景に出会うと、わが国との違いは何かと考えてしまう。歴史や文化的背景も異なることを承知の上で言えば、「土地利用マネジメント」の違いは大きい。すなわち、デンマーク国土4.3万km²のうち95%は原則的に開発が禁止されている。また郊外における大型ショッピングセンターの新規立地も1997年に全面禁止された。これらによって自然、農村景観の基盤である土地がまず護られている。



宮崎大学工学部 助教授 吉武哲信氏

工学博士。九州大学大学院工学研究科修了。地域・都市計画、交通計画を専門分野とする。

なお、農村部では建築・開発が認められる場合もあるが、これには厳密な地区計画(景観、環境への配慮を含む)が必須である。

他方、マーガレット・ロード指定の背景にはやはり観光がある。ルートは美しい風景だけでなく、観光地や保養地もつないでいる。沿線には乗馬、海水浴、散策等の様々なアクティビティを提供する施設も散在し、地域経済に貢献している。ただし、先述の土地利用規制のため、まちやむらの外に土産物屋や娯楽施設が立ち並ぶことはない。観光の振興と観光関連施設の開発——このバランスの取り方は、環境や景観を重視するデンマーク人ならではのうまさである。同時に、観光のみに頼らなくてよいほど農業が健全であることに注目する必要がある。

なにはともあれ、デンマークの美しい風景はマーガレット・ルートで体験できる。機会があれば是非たどってみて、わが国の地域づくりに思いをはせていただきたい。



道守九州会議 会員募集中!

道守九州会議では、会員の募集を行っています。さまざまな道守活動を行っている皆様にご登録いただくと、道守情報・交流ネットワークにご参加できます。入会については道守九州会議、または九州7県の道守会議へお問い合わせ・お申し込みください。

※賛助会員(会費あり)の募集も行っています。詳しくは下記事務局へお問い合わせください。

あなたも九州の道を考え、守ってみませんか?

道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。



手作り遊歩道を地元住民で保守管理
水俣市16区寄る会(水俣市)

広げよう道守の輪

九州各地の多くの方々が道を舞台に活動を繰り広げています。地道でひたむきな活動ですが、地域の仲間、学校の友達、会社の同僚、市民団体、個人の活動などが、地域に共感と感動を与えています。



女性の視点とITで道守をサポート
NPO観光コアラ(大分市)

道守活動の例

道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング(監視・通報)、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など



会員の絆も深まる花畑づくり
牧瀬杏会(佐賀県 藤木町)

TOPICS

「帰省客を 気持ちよく迎えたい」

という願いから、佐賀大学の学生や佐賀市職員、市民ら10人が8月10日夜、同市駅前中央の佐賀駅バスセンターの清掃を行った。水を噴射して汚れを落とす機械やデッキブラシを使い、2時間以上かけて床や壁を磨いた。

「自然公園クリーンデー」 美化意識高める

自然公園クリーンデー(毎年8月第1日曜日)にあたる8月6日。熊本県阿蘇市の阿蘇山・草千里ヶ浜一帯では、クリーン阿蘇推進協議会が清掃活動を実施。200人余の参加者が丹念にごみを拾って歩いた。

8月4日は「橋の日」

その発祥地とされる延岡市と宮崎市で橋に感謝し河川に親しむイベントが開かれた。宮崎市中心部の橋橋周辺では、地元の子供や橋梁メーカー社員ら約200人が使用済み花火や空き缶を拾い、河川敷からウナギ約400匹を放流した。

宮崎駅前商店街 「ありがとうアーケード」

JR宮崎駅前商店街のアーケードが、老朽化を原因に全面撤去される。7月1日、同商店街振興組合は「お別れコンサート」を開催。27年間にわたる風雨と日差しをしのいできた「街のシンボル」との別れを惜しんだ。

トラクター先頭にパレード 農道開通祝う

山間部に位置する長崎県松浦市御厨町川内地区。農作業では主要道路への迂(う)回が迫られていたが、7月2日、待望の新しい農道2路線が開通。地区住民ら約100人が参加して、9台のトラクターを先頭に祝いのパレードを行った。

企業労組、清掃で地域に奉仕

佐賀県みやき町江口の武井電機工業は創立40周年を記念して、9月2日、地域で奉仕活動を実施。筑後川沿いなどを歩き、道路や農道で空き缶やたばこの吸い殻などを回収した。3日には、連合佐賀東部地域協議会の労組員と家族ら約120人がJR鳥栖駅や周辺商店街の清掃活動を行った。

児童21人、 障害者への理解深める

8月、福岡県田川市内の小学生21人が、車いすで道路を通行したり、傾斜のきつい坂道を登るなど、体の不自由な人の生活を体験した。初参加の児童は「普段はなんともない段差が危なかった。困っている人がいたら助けたい」。

死亡事故ゼロ、 連続1500日達成

大分県津久見市は7月8日午前零時、交通死亡事故ゼロ連続1500日達成。市としては全国3位の記録。セメント関連の工業地帯を抱え大型車の往

来が激しい道路事情の中、市民一丸となつての努力が実った。

街道イメージして改修 新愛称は「宿場通り」

北九州市のJR黒崎駅前の主要な通りの一つ、市道田町鳴水線の新しい愛称が公募で「宿場通り」に決定。同線は拡幅工事にともない、歩道を土色のブロック舗装にし、灯ろうや茶屋風の休憩所を設け、宿場町だった江戸時代の街道をイメージした改修を進めている。

「伊勢えび海道」で観光振興

日豊海岸の観光振興を図るため、大分県田蒲江町(現佐伯市)と宮崎県田北

道守 人物伝

朝・夕の清掃活動続け35年



武雄市山内町
松雄和男さん(75歳)

武雄市山内町のJR三間坂駅で清掃を続けて35年。雨の日も、寒い日もほとんど休むことなく、朝・夕2回の奉仕活動に励む。作業は駅の構内、駐車場、線路の引き込み線周辺まで総延長約300mで、吸い殻などのごみを拾う。トイレ掃除も欠かさず、ホームの花壇や植え込みの除草、水やりなどの手入れと幅広い。

きっかけは1976年、駅前の道路に花が植えられたこと。佐賀国体で町を訪れる選手や観客を花でもてなす運動だった。松尾さんは「せっかくの花だから大切に育て、駅もきれいにしようと思ったんです」と振り返る。

地道な活動が評価され、これまでに国土交通省の大臣表彰、知事表彰など表彰は11回。謙遜しながらも、松尾さんは「健康のゆるす限り、三間坂の玄関である駅を清掃していきたいですね。みなさんによるこぼれることが健康の秘けつかもしれません」と笑う。

道守九州会議からのお知らせ

道守九州会議交流会2006 「みちづくしin長崎」開催

10月27日(金)、28日(土)の2日間、長崎市で道守九州会議交流会「みちづくしin長崎」を開催します。詳細は本誌5ページをご覧ください。

とるば総合サイト 全国のとるば情報を掲載

国土交通省九州地方整備局と連携し、九州で開発した「とるば」(フォトスポット&パ

キング)。2006年度から国土交通省の施策として全国展開をスタートしています。詳しくは、「とるば総合サイト」をご覧ください。
<http://www.torupa.jp/>

第3回フォトコンテスト開催中!
地域の魅力をご投稿ください

九州とるばでは、第3回フォトコンテストを開催しています。対象は2007年1月31日まで投稿された全ての作品になります。奮ってご応募ください。詳しい投稿方法は、「九州とるば」ホームページをご覧ください。
<http://www.torupa.com>
<http://kyusyu.torupa.jp/>

●入会申し込み・お問い合わせ

(社)九州地方計画協会内
「道守九州会議」事務局
〒812-0011福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

ホームページもご覧ください。申し込みも可能です
道守HP <http://www.michimori.com>
e-mail michimori@michimori.com

道守通信 編集後記

8月の道路ふれあい月間には猛暑の中、各地で多くの道守の皆様が汗を流し、また学習・交流され、9月には日本風景街道戦略会議委員の皆様が福岡、佐賀、長崎、宮崎、鹿児島を訪問し道を活かした地域づくりへの意識を交流しました。10月27～28日は九州の道守が集う交流会「みちづくしin長崎」です。皆様の道守活動が地域や暮らしにより活き、円滑に楽しく進められる環境づくりなどを考え、また歴史と文化の街・長崎をさるき(歩き)学習します。多くの皆様のご参加を。(道守九州会議事務局 森将彦)



P 第2回 とるばフォトコンテスト 優秀賞作品
「蛇淵の滝(春)」 三浦 誠氏(福岡県)

<フオトスポット> 福岡県京都郡厚川町帆柱(駐車場すぐ横徒歩1分)

降雨で水量の多い日がねらい時、吊橋上での撮影のため、ブレに注意が必要。近くの里山風景の撮影も楽しめます。



広報誌「道守通信」秋号
平成18年9月30日発行

■発行「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

e-mail アドレス michimori@michimori.com

定価 300円(消費税を含む)